

狭山の歴史に触れてみませんか 民俗文化広報担当が 皆さんをご案内します



いつもは何気なく通り過ぎてしまう、道端のお地藏さんや道標にも、狭山の歴史が刻まれているんですね。

私が今住んでいる、東三ツ木という地名の由来を尋ねたところ「現在の人間市に三ツ木村という所があり、そこに住んでいた人が南北朝時代に移住したのが狭山の三ツ木です。江戸時代までは両村とも「三ツ木村」と称していましたが、明治時代に郵便制度ができるまで、これでは間違えやすいというので、人間市分を『西三ツ木』、狭山市分を『東三ツ木』と言つようになったんですよ。また、私の奥富という名字も「昔、奥州から来た人たちが、この地にとどまり『奥留』と名乗ったと言われています。その後、繁栄を願って『留』と

問い合わせ
民俗文化広報担当へ内線7163



ホームページアドレス
<http://www.city.sayama.saitama.jp/history/history.htm>

REPORTER'S EYE



【リポーター】
奥富孝子さん(東三ツ木在住)

リポーターズアイでは、行政のしくみや話題性のあることから、市内のいろいろな施設などを、市民のかたがリポートします。

私たちのふるさと
狭山をもっと知ってみませんか

皆さんは、今、私たちが暮らしている狭山について「昔はどんな所だったのかな?」どんな人が、どんな生活を送っていたのかな?」などと考えたことはありませんか。今回は、そんな疑問に何でも答えてくれる強い味方、民俗文化広報担当・高橋副理事に話を伺いました。

民俗文化広報担当は、太古の昔から現在に至る狭山の歩みや、先人が残してくれた文化遺産に触れることで、市民にもっと狭山を知ってもらい、より身近に感じてもらうことを目的に、昨年4月に設置されました。主に社会教育の分野と連携して、博物館や公民館で開催される歴史講座



狭山の地名の由来などとても分かりやすく説明してくれました。

や古文書読解講座、歴史教養などの講師として皆さんに説明をするほか、グループや団体から要望があれば、皆さんの所に向かい、狭山の歴史に関することを系統立てて、時にはその時代の日本史の流れと比較しながら、ふるさと狭山の歩んだ歴史を分かりやすく話してくれます。

「私が今住んでいる、東三ツ木という地名の由来を尋ねたところ「現在の人間市に三ツ木村という所があり、そこに住んでいた人が南北朝時代に移住したのが狭山の三ツ木です。江戸時代までは両村とも「三ツ木村」と称していましたが、明治時代に郵便制度ができるまで、これでは間違えやすいというので、人間市分を『西三ツ木』、狭山市分を『東三ツ木』と言つようになったんですよ。また、私の奥富という名字も「昔、奥州から来た人たちが、この地にとどまり『奥留』と名乗ったと言われています。その後、繁栄を願って『留』と

「ふるさと狭山」をお知らせしたいと取り組んでいます。狭山の歴史で「こんな話が聞いてみたいな」と思ったら気軽に問い合わせてください。ためになるのはもちろん、きつと面白い話が聞けますよ。

「ふるさと狭山」をお知らせしたいと取り組んでいます。狭山の歴史で「こんな話が聞いてみたいな」と思ったら気軽に問い合わせてください。ためになるのはもちろん、きつと面白い話が聞けますよ。

「ふるさと狭山」をお知らせしたいと取り組んでいます。狭山の歴史で「こんな話が聞いてみたいな」と思ったら気軽に問い合わせてください。ためになるのはもちろん、きつと面白い話が聞けますよ。

「ふるさと狭山」をお知らせしたいと取り組んでいます。狭山の歴史で「こんな話が聞いてみたいな」と思ったら気軽に問い合わせてください。ためになるのはもちろん、きつと面白い話が聞けますよ。